

第三者意見

当意見は、本レポートおよび関連ウェブサイト(<http://www.y-yokohama.com/csr/>)の記載内容、および同社のタイヤ・MB両事業の企画・品質保証・原料/資材調達、全社の経営企画、品質監査、人事・安全衛生、総務・コンプライアンス、CSRの各担当者へのヒアリング、およびタイ国内のタイヤ生産、同試験、MB事業生産、ゴム加工の各拠点(YTMT、TTCA、YRTC、YTRC)およびYTRCに天然ゴム原料を供給するゴム農園における現場視察に基づいて執筆しています。

同社のCSRへの取り組みは、現場レベルにおいて進み続けているものの、トップ・マネジメント層の明確かつ具体的なコミットメントがさらに求められる段階と言えます。

IIHOE (人と組織と地球のための国際研究所)

代表者 兼
ソシオ・マネジメント
編集発行人



IIHOE:「地球上のすべての生命にとって、民生的で調和的な発展のために」を目的に1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。
<http://blog.canpan.info/iihoe/>



高く評価すべき点

●**生物多様性の保全** (<http://www.y-yokohama.com/csr/report/environment/environment03/>) について、「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクト (<http://www.y-yokohama.com/csr/mori/>) が開始から10年間で、生物多様性の維持・改善に配慮した植樹を国内外で45万本以上行うとともに、その苗木の栽培も自社内で行い、国内では16年度は2万4千本(62%)を社内供給するとともに、自治体や他社にも累計で30万本 (<http://www.y-yokohama.com/csr/mori/widening/>) 以上提供していること。海外でもタイや中国をはじめとする各国の拠点で、苗木の栽培から植樹までが体系的に行われていること。森林生態系や緑地の維持・改善のための社会貢献プログラムとして、世界最高の水準にあると高く評価するとともに、今後は、「YOKOHAMA千年の杜プロジェクト」サイトが、同様の取り組みを進める他社の事例も多言語で網羅的に紹介するポータルサイトへと進化することも、引き続き期待します。

取り組みの進捗を評価しつつ、さらなる努力を求めたい点

●**品質保証の推進体制** (http://www.y-yokohama.com/csr/report/consumer/consumer_01/) について、市場措置の積極的実施を評価しつつ、今後は、顧客に与える影響について、その確率と重大さ・深刻さから評価し、最小化することを経営指標に織り込むなど、定量的かつ効果的に取り組みが進められることを引き続き期待します。

●**環境負荷の削減** (<http://www.y-yokohama.com/csr/report/environment/environment08/>) について、廃棄物発生量と温室効果ガス(GHG)排出量が中期目標を達成しつつあり、2030年までの目標を策定中であることを評価しつつ、今後は、日本政府が掲げる2030年までにGHG排出量(13年比)26%削減を早期に達成するために、「生産量の変動に適応しうるエネルギー使用の非固定化」(エネルギーのジャストインタイム)化や、顧客の使用段階における省エネルギー効果のさらなる拡大など、課題と手法の可視化を徹底的に進めることを、引き続き強く期待します。

●**調達先におけるCSRの推進** (<http://www.y-yokohama.com/csr/report/partner/>) について、CSR調達ガイドラインと同チェックリストを改訂し、主要国で調達先対象のCSR勉強会開催を継続し、調達先による自主診断や同社調達担当者による現地調査などの結果を取引先にもフィードバックし、表彰する制度が設けられていること、また、ゴム生産農園の調査が実施され、タイのゴム生産農家においてアグロフォレストリーの導入・推進を支援 (<http://www.y-yokohama.com/csr/report/partner/partner01/>) していることを評価しつつ、今後は、調達先による取り組みの改善をさらに効果的に促すために、ガイドラインやチェックリストの項目や取り組み状況評価の詳細化と、事例の共有に向けて交流する体制が整えられることを、引き続き期待します。

●**働き続けやすさの向上** (<http://www.y-yokohama.com/csr/report/employee/employee03/>) について、「多様な働き方を認め合い、長く働きやすい会社へ」を目的とする女性活躍推進タスクが設けられ、育児・介護のための休暇・休職・短時間勤務制度の利用者が横浜ゴム(株)従業員の4.16%に達したと、介護に関するセミナーが労働組合との協力のもとに開催されたことを評価しつつ、「休みながら働き続けられる」環境の確立に、引き続き強く期待します。また、メンタル面でのケアについても、今後は活用と、効果的な対策が進むことを期待します。

●**グローバル企業としての人的ポートフォリオの拡充** について、グローバル人材データベースに課長級以上の職員が登録されたことを評価しつつ、今後は、2020年代の世界市場におけるポジションとビジネスモデルを見据えた長期的な目標と戦略に基づき、本社の次世代の経営層育成がグローバルに加速されることを強く期待します。

●**障害を持つ従業員の雇用** について、雇用率が国内グループで2.15%に達し、雇用条件や職務領域の拡充が進められていることを評価しつつ、今後は障害を持つ従業員の勤続年数をより長期化するための施策がさらに積極的に進められることに、引き続き期待します。

一層の努力を求めたい点

●**コーポレート・ガバナンスとCSR推進体制** (<http://www.y-yokohama.com/csr/report/governance/governance/>) について、ISO26000の中核課題を参照した重要成果指標(KPI)を設けて取り組みを進めていることを評価しつつ、そのKPI項目への取り組みが、社会と自社の未来の持続可能性向上にもたらす効果が不明確であること、また、CSRへの取り組みが「本来業務とは別」と意識・位置付けされている部門もあることを憂慮します。今後は、なぜ、どのように、CSRに取り組む必要があるのかを、トップ・マネジメントが自らの言葉で、明確かつ具体的に述べ、日常のマネジメントにおける進捗管理を求めるとともに、各事業部門の企画担当の主導により、2020年代の世界市場における自社のポジションやビジネスモデルの進化を具体的に想定した戦略と体制の整備が進むことを、引き続き強く期待します。報告やコミュニケーションについても、国内外の主要拠点・会社の取り組みが個別に紹介されていること (<http://www.y-yokohama.com/csr/data/>) を評価しつつ、重要な拠点・地域においては、NPOなどと継続的な対話の機会を設け、ISO26000が求めるステークホルダー・エンゲージメントが促されることを期待します。

●**従業員の安全** (<http://www.y-yokohama.com/csr/report/employee/employee01/>) について、17年度に入って以降ながら、海外拠点で重大事故が続いていることを憂慮します。今後は、安全向上への取り組みの実効性を高めるために、設備や体制・制度の改善にとどまらない現場レベルにおける日常的な取り組みと、改善の進捗の詳細な報告を、引き続き求めます。

第三者意見をいただいて

当社の取り組みに対し、ご評価とご指摘をいただきました。ご評価いただいた点につきましては、さらなる深化を図り、ご指摘いただいた点につきましては真摯に改善を進めてまいります。

改善を進める中で2017年度に発生した重大災害については、改めて安全設備および安全文化の再構築を図ってまいります。一方、人づくりの面では、多様な方々が能力を発揮して長く働くことができる職場環境整備を行い、社内外の人材活用タスクとも連携してまいります。また、環境貢献

につきましてもポスト「千年の杜」を立ち上げ、引き続き活動を続けてまいります。

創立100周年を迎えた今、次の100周年に向けた持続可能な成長を目指し、現在から将来につながるCSRの重要課題の再設定と解決施策の実行により、お客さまに求められる製品・サービスの提供と世界中の事業活動拠点での地域活動を通じて、社会への貢献をより一層拡大してまいります。

執行役員 CSR本部長 塚田 修一

